No. 144

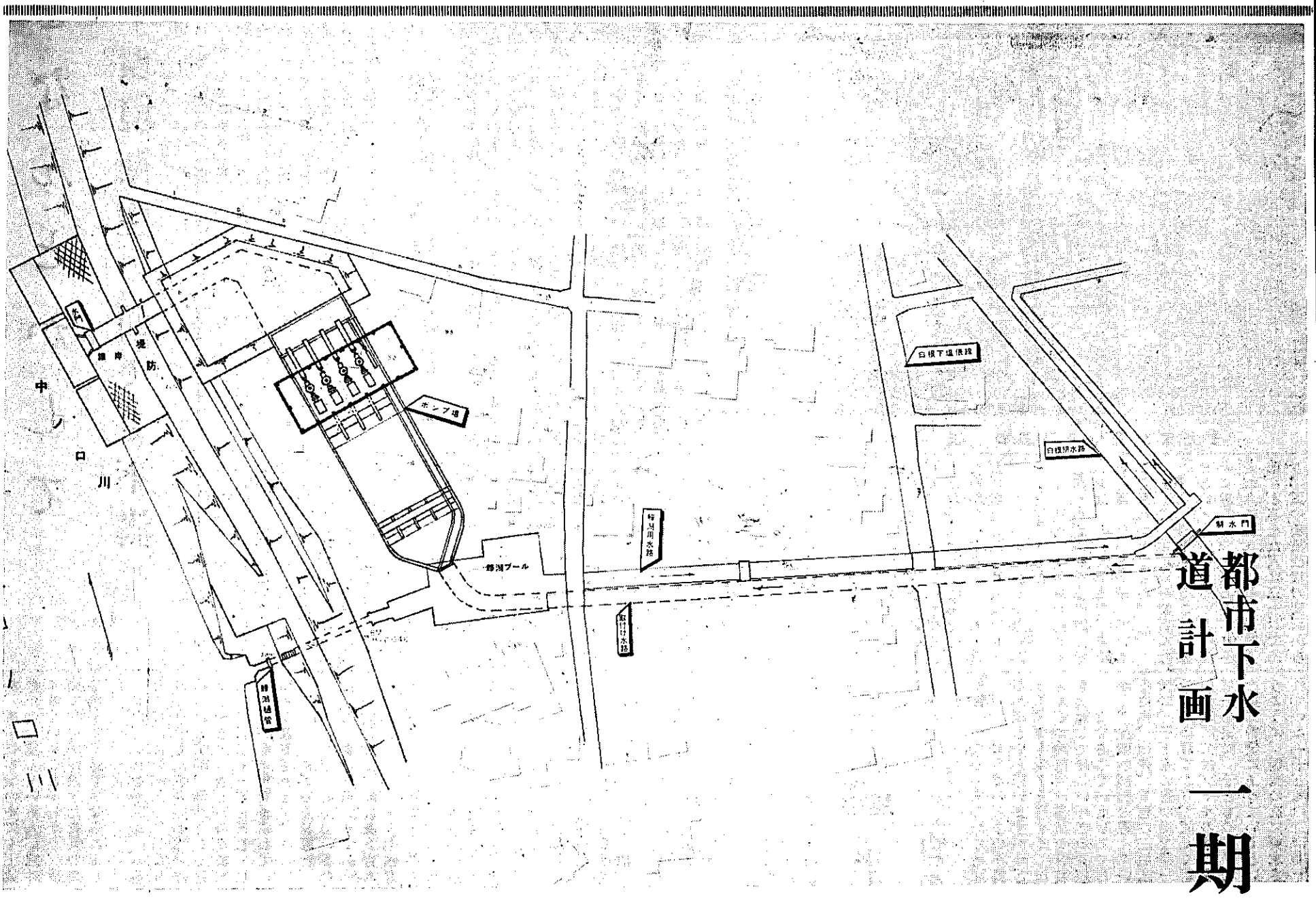
昭和45年11月10日

発行／白根市役所
編集／企画審議室

広しろね報

人口のうごき

(11月1日現在)		(10月中)	
人口	33.237	出生	34
男	15.982	死亡	25
女	17.255	転入	73
世帯	6.677	転出	94



一期工事は49年度に完成

三億円でポンプ場と取付け水路を新設

～完成後の排水は万全～

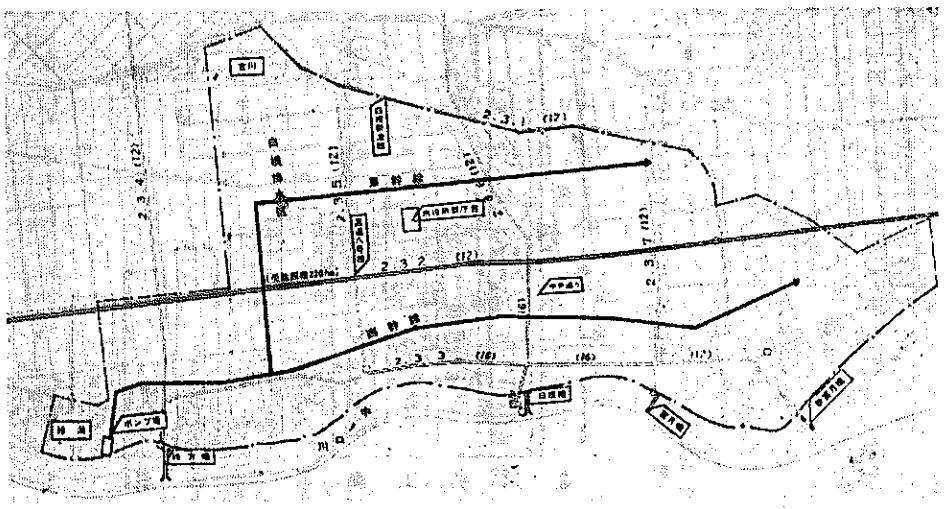
昨年の広報しろね第百四号（四月十日）にお知らせしました「白根都市下水道計画」の第一期工事分の内容＝写真上＝が決まりました。この工事は、約三億二千万円をかけて、四十五年度から五年計画でポンプ場の建設と、現在の白根排水路までの取り付け水路を新設しようというものです。五年後にこの工事が完成しただけで、いままで降ったような大雨の場合でも、充分排水できる画期的なものです。

前にも説明しましたように第一期分の内容は、鉄筋コンクリート二階建てのポンプ場の建設と、取り付け水路の新設です。ここでいうポンプ場とは沈砂池、ポンプ室（写真下）吐き口水槽などを含めたものをいいます。このほか、中ノ口川沿いと白根排水路にも新しく水門を取り付けることになっています。

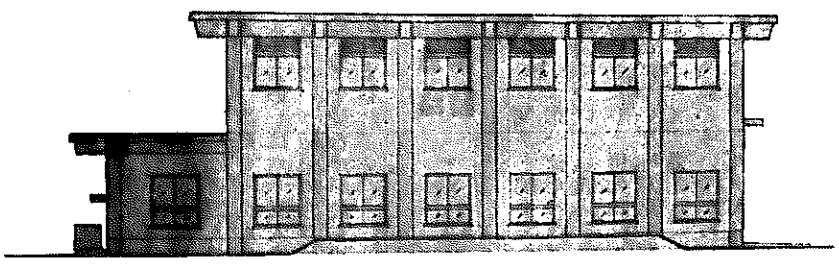
沈砂池などを含めたポンプ場付近の面積は五千六百四十五・三六平方㍍ですが、ポンプ室自体の床面積は三百三十二平方㍍で、その高さは最近の建て物の三階建てくらいの十㍍という大きなものです。

このポンプ室には、一期工事分としてさしあたり千㍉のポンプ二台と、四百五十㍉のポンプ一台の計三台を取り付けることになっています。

一方、白根排水路までの取り付け水路は、幅二・五〇㍍のものを百七十㍍つくることになっており、この一期工事が完成すると、いままでの最高である一日二百二十六・八㍉の降雨量があっても、充分排水できます。それだけに、大雨のたびに床下浸水する地域の人は「工事が完成するといままでのように大雨に対する不安がなくなるので、一日も早い着工と完成を期待したい」と話していました。



白根排水区の範囲



ポンプ場の姿図

白根都市下水道計画　全体の内容

いまの一期工事を含めた「都市下水道計画」がすべて完成すると、ポンプ場には千㍉のポンプ四台と、四百五十㍉のポンプ一台の計五台取り付けられ、一日の降雨量が五千九百四㍉、一時間当たりで二百四十六㍉あっても排水できることになります。

また、現在ある排水路を整備し、狭いところで一・二〇㍍、広いところで二・五〇㍍に改良または新設する予定です。いまの白根排水路は、整備改良後西幹線と名称を変えいまの助ェ門排水路上流の中央通りまでを整備改良し、中央通り以南を新設して東幹線と名称を変えます。

都市下水道計画全体の排水区は、写真中のとおり、鷲潟から戸頭までの二百三十㌶でここが将来市街地化して、人口が二万人にふえても充分排水できるよう計画されています。

いままでの経過

いままでは農業用の排水路と排水機場を利用していましたが、あくまでも農業用として作られているため、大雨などの場合排水しきれなかったというのが実情でした。そのため「大雨が降っても充分排水できる施設の建設を」という声が強まり、四十二年からポンプ場建設の計画を進めてきましたが、そのうち四十四年度からの経過について紹介して行きます。

▽四十四年度＝四十四年五月二十二日、都市計画として建設大臣から計画決定を受ける。同年六月工事をしてもよいという事業認可を受けるため県知事に申請する。同年九月十二日県知事から事業認可を受ける。

▽四十五年度＝工事現場などの調査、設計、用地買収にかかる。

これが大まかないままでの経過ですが、この計画全体が完工すると、市内ではじめての雨水の排水を目的としたポンプ場と排水路ができることになります。